

アフリカの風 in HADANO

横山由梨



六月、サッカーの世界大会ワールドカップが初めてアフリカ大陸で開催された。残念ながら前回の優勝国イタリアと準優勝国フランスが予選敗退という波乱の中、見事に予選を勝ち抜いた日本代表はベスト16。二〇五〇年にワールドカップ優勝を目指している日本サッカー界としては、日本サッカーに良い刺激を与えることが出来たので、結果オーライといった感じだろう。

今回のワールドカップ開催で少しは身近に感じようになったアフリカだが、一言でアフリカと言っても色々な国と地域や風習がある。その人たちがどんな料理を食べているのか、生活スタイルはどんなか、サッカー環境はどうなのか……。先入観だと解かっている「アフリカ＝砂漠」「アフリカ＝サンコンさん!？」というイメージが強く、テレビ中継で緑色の芝生のサッカー場に雨が降っている映像がとても不思議に感じたのが印象的だった。つまり、私はアフリカのことを全く知

イラスト・奈良坂智子

らないのだ。

そんな矢先、私が活動をしているスローフード秦野という団体から八月に「アフリカ・チャリティーイベント」を秦野（神奈川県）でやりたいのでチラシを作成して欲しいとの依頼があった。

スローフード協会のテーマの一つに『学校菜園の試み』というものがある。これは学校の校庭に菜園を作り、生徒とともに野菜を育て、収穫、料理して、みんなでテーブルを囲む幸せを子どもたちに伝えていこうというものだ。私が住む秦野でも学校菜園は学校行事として当たり前にあるので、みんなが体験しているものだと思っていたが、そうではないという事も初めて知った。

そして今回のイベントで出た利益を、世界の中でも食料や水不足に悩むアフリカの子どもたちの学校菜園の活動に役立ててもらおうというのだ。

しかもこのイベント、娘がガーナ人と結婚して

いるという方のトークライブ、アフリカ料理や秦野のグルメが出る青空カフェ、アフリカの伝統音楽を古墳の上で生演奏しちゃうというライブなど斬新なアイデアが満載だ。

また、秦野市近隣の子どもたちにとって、ワールドカップが行われたアフリカとはどんな所なのか、教科書やテレビの中だけではなく、今の「アフリカ」を知っている人の話を聞いたり、アフリカ人の魂の音楽を聞いたりすることで、少しはアフリカという国を直接肌で感じる事ができるチャンスにもなる。インターネットなどが普及している世の中だからこそ、こういう肌で感じる機会を最大限に生かしてもらえたら、アフリカの子どもたちにとっても、秦野の子どもたちにとっても、素晴らしい国際交流・チャリティー・イベントとなるのだと思う。そして秦野に吹くアフリカの風を感じてもらえたら嬉しく思う。

（よこやま ゆり・サッカー「筋イラストレーター」）